

月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 1 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



変り兜(かぶと) ー戦国の COOL DESIGNー



橋本麻里 著
新潮社 1600 円 (0012807220)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

変り兜とは、戦国時代に発展し、江戸時代以降も作られた不思議な造形の兜のことだ。本書はそれら 60 点を、「ウサミミ」や「タワー」等の 16 種類に分類し、美しい写真と共に紹介する。水牛の角や孔雀の羽、茄子のへたなど動植物を模した等、そのデザインはさまざまで見ただけでも楽しい。ロボットを連想させる造型は、現代日本のアートにも通じるものがある。「バニー男子で行こう」等、兜の写真に添えられた副題も秀逸で、歴史に親しむきっかけになる。〔756.7〕



字幕屋に「、」はない ー字幕はウラが面白いー

太田直子 著
イカロス出版 1500 円 (0012798153)

ジャンル：知識・教養を深める

30 年以上字幕翻訳に携わってきた著者が、その製作の裏話を明かす。字幕翻訳には、俳優がしゃべるスピードに合わせて1秒4文字までなど、書籍の翻訳にはない制約がある。にもかかわらず非英語圏の映画では、言語監修者に1秒20文字の訂正案を返されるなど、何気なく見ている字幕に様々な工夫や苦労があることが、軽妙な文章でつづられる。映画のタイトルをもじった各章題には思わずニヤリとさせられる。映画と言葉への愛にあふれたエッセイだ。〔801.7〕



さよならまでの読書会 ー本を愛した母が遺した「最後の言葉」ー

ウィル・シュワルビ 著 高橋知子 訳
早川書房 2500 円 (0012775998)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

末期がんだと知った母とその息子である著者が、病院の待合室で始めた二人だけの読書会は、母の死まで続いた。宗教書から児童書まで幅広く語り合うことで、著者は母の人生をより深く知ることができた。死の準備を淡々と進める母と、戸惑いつつも死に向き合おうとする著者自身の姿が、穏やかな筆致で描かれる。本は相手と心を通わす媒体だということを母が示してくれた、と著者は言う。共に本を読み、語らうことによって生まれる豊かさに心が動かされる。〔G シュワ〕

気候で読み解く日本の歴史 －異常気象との攻防 1400 年－

田家 康 著
日本経済新聞社 1800 円 (0012773980)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

著者は気象予報士の資格を持つ金融マンだ。本書では、日記文学等から過去の気温や天候を推測した先行研究を数多く検証する。そして徹底したデータ調査の結果を日本史の出来事と重ね、気候変動による自然災害に日本人がどのような影響を受け、対応してきたかを考察した。度重なる飢饉から、戦国時代に活躍した足輕が生まれたなどの推察には驚かされる。一方で、災害時の為政者の施策の対比をし、災害後に必要な手立てを歴史から学べると示唆している。〔451.9〕

動物を守りたい君へ



高槻成紀 著
岩波書店 840 円 (0012826585)

ジャンル：自然環境を考える

獣医になって傷ついた動物を助けたいという中学生に、著者は交通事故で死んだタヌキの頭がい骨を見せる。目の前の動物を治療するだけでなく、交通事故に遭わない環境を作るのが大切ではないかという問題提起だ。野生動物だけでなく、ペットや家畜などとの関わりでの様々な事例を挙げ、生態系の仕組みを紹介する。動物を守りたいという願いから、もう一步踏み込んで、本当に動物のためになることをするには何が必要かを中高生にもわかりやすく説く。〔480.8〕

織田作之助 －昭和を駆け抜けた伝説の文士“オダサク”－

オダサク倶楽部 編集
河出書房新社 1900 円 (0012790022)

ジャンル：大阪にゆかりの本

織田作之助は、平成 25 年で生誕 100 年を迎えた、大阪を代表する作家だ。7 年という短い作家活動の中で多くの作品を残し、今も熱烈なファンを持つ「オダサク」の生誕から突然の死までを丹念に追う。数々の写真や、親交のあった人々による随筆、太宰治や坂口安吾との「無頼派座談会」、妻一枝の家計簿などの関連資料から、多面的なオダサク像が浮かびあがる。文学や人間に対する鋭いまなざしを持ち、大阪の市井の人々をいきいきと描いたオダサクの魅力に迫る。〔910.28〕

アノスミア －わたしが嗅覚を失ってからとり戻すまでの物語－

モリー・バーンバウム 著 ニキリンコ 訳
勁草書房 2400 円 (0012808536)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

アノスミアとは、においを感じることができない嗅覚障がいのことだ。嗅覚を失うと、自分の家にも、においがしないことで知らない場所にいるような気がするという。シェフを目指していた著者は、交通事故で突然嗅覚を失う。確立された治療法がないなか、アノスミアについて理解を深めるために専門書を読み、研究者を訪ね歩いた体験を記す。においが記憶と結びついていることなど、科学的解説も盛り込まれ、奥深いにおいの世界に引き込まれる。〔Gハンハ〕